

瓶波根於呂志 上

辛

9

73  
4854  
1





保 8  
4854  
卷 1-2

筑波根抄長志卷之上

水戸北条氏清く小つゝ事とす

大正四年六月九日寄  
内田銀藏氏贈

新居庫



中納言齊藤原清家格の清後政事始り小法寺に  
行かれと清知と清くさせしり門の事古風小如させ  
清く國中小令させしり中納言清家とす  
年より使行門免見あ門免き事の者うう一  
けしり中納言清家とすしり中納言清家とす  
ことふ事とすしり中納言清家とすしり中納言清家とす  
の事ありさしり中納言清家とすしり中納言清家とす  
是とすしり中納言清家とすしり中納言清家とす  
死葬の事ありさしり中納言清家とすしり中納言清家とす



と云ふ事なりと自今以後は神葬不<sub>レ</sub>也  
氏不<sub>レ</sub>死<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>其村々里の文人組を改め文人組  
中<sub>レ</sub>死<sub>レ</sub>をば衣履をせ給<sub>レ</sub>衣履をせ給<sub>レ</sub>自<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>  
て衣の<sub>レ</sub>せ麻上<sub>レ</sub>とせ<sub>レ</sub>て櫃とせ<sub>レ</sub>給<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>  
ゆ<sub>レ</sub>と物りら<sub>レ</sub>櫃のつめ物とあ<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>と  
定<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>葬<sub>レ</sub>初<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>せ<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>必<sub>レ</sub>門<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>  
を<sub>レ</sub>給<sub>レ</sub>

葬詞

天保某年某月某日止之日喪主姓名膝折伏之櫃乃  
前<sub>レ</sub>言<sub>レ</sub>左<sub>レ</sub>久<sub>レ</sub>天地<sub>レ</sub>初<sub>レ</sub>志<sub>レ</sub>里<sub>レ</sub>人民<sub>レ</sub>蕃<sub>レ</sub>息<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>迺<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>毛<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>迺  
毛<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>遠<sub>レ</sub>祖<sub>レ</sub>与<sub>レ</sub>里<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>八十<sub>レ</sub>連<sub>レ</sub>綿<sub>レ</sub>佐<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>唯<sub>レ</sub>氣<sub>レ</sub>迺<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>比

盡事無隨<sub>レ</sub>今<sub>レ</sub>形<sub>レ</sub>塊<sub>レ</sub>古<sub>レ</sub>曾<sub>レ</sub>黃<sub>レ</sub>泉<sub>レ</sub>葬<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>礼<sub>レ</sub>御<sub>レ</sub>媿<sub>レ</sub>波

直<sub>レ</sub>亦<sub>レ</sub>家<sub>レ</sub>内<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>歸<sub>レ</sub>給<sub>レ</sub>里<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>向<sub>レ</sub>亦<sub>レ</sub>子<sub>レ</sub>孫<sub>レ</sub>平<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>守<sub>レ</sub>夜<sub>レ</sub>守

仁<sub>レ</sub>守<sub>レ</sub>給<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>止<sub>レ</sub>恐<sub>レ</sub>美<sub>レ</sub>恐<sub>レ</sub>美<sub>レ</sub>母<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>須

件<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>詞<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>取<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>自<sub>レ</sub>葬<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>行<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>か<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>れ<sub>レ</sub>  
法<sub>レ</sub>願<sub>レ</sub>門<sub>レ</sub>二<sub>レ</sub>百<sub>レ</sub>六<sub>レ</sub>十<sub>レ</sub>寺<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>廢<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>返<sub>レ</sub>精<sub>レ</sub>  
て<sub>レ</sub>今<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>門<sub>レ</sub>々<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>二<sub>レ</sub>十<sub>レ</sub>八<sub>レ</sub>ヶ<sub>レ</sub>寺<sub>レ</sub>沙<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>か<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>除<sub>レ</sub>地<sub>レ</sub>  
より<sub>レ</sub>初<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>施<sub>レ</sub>物<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>金<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>個<sub>レ</sub>用<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>共<sub>レ</sub>費<sub>レ</sub>生<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>  
て<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>身<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>余<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>法<sub>レ</sub>國<sub>レ</sub>道<sub>レ</sub>あり<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>

此の葬詞は水戸の郷村泉を為と云々の参河を在るが神田楚  
言確かなことと云ふありとて傳へらるるなり

東照神君の御を佛をと<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>ひ<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>乃<sub>レ</sub>神<sub>レ</sub>祭  
小<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>せ<sub>レ</sub>給<sub>レ</sub>ひ<sub>レ</sub>別<sub>レ</sub>當<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>傳<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>神<sub>レ</sub>威<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>並<sub>レ</sub>れ



自余の法先祖方の雲律ともそれ兼准より此意  
月忌日等の法よりと伝承の事本と改めたる事律  
能生乃建辰小あられ解き急と傳傳ふ事りて律中  
是とて今或の友美の伝とてせ

いふ事ありむる所唐若四所唐若を記あり  
多うとて法菩提而常福寺とて向山とて小地小  
あるとそれ小拍派くわと法とて古の事とて  
華祭此由とてひひとてとてとてとて

法菩提所草地と常福寺といふと智恩院といふ  
法去宗十八檀林の中とてといふゆり葉衣地あり

もせし高國元連といふ地小あり、別檀林ありと義  
乙の君の法付向中ありとて法菩提而とて中とて法菩提  
といふ向山小拍派して元連の方と院代めとてあきとて  
さるとあきひ葉衣と元連の方と拍派とて向山とて  
傳し寺願没収とて法代の所位解とて所位  
内あり法とて社小遷社とていふ

日蓮宗久留寺といふ法菩提而ありこれ法考所  
田代とてとて院法拍派とてとて追考とて  
願入寺といふとて宗本願寺未とてといふと大寺あり  
水戸の版倉方ありとてといふと拍派とて寺小法ありとて  
相度とて現存ありとて止のりありとてといふと



多といふ寺此願地を石とありの地をかき放させ  
給ひ其況はなるとる貴人かは度深りて合字五百  
年音後迄とらぬとて

畑村といふ所ふ業師業木の秘佛のらある所と  
常福寺の配下ありむり 義之志志とありて  
宗廟といふ所より付は持秘佛の宗廟の中  
かゝる宗廟やいふんとりれいふや四の同二廟  
とんふ何山宗りあんとはてしては手自か  
宗寺といふかれりら掃きてるは佛之押せり金  
箔扱も帯代り上宗あり一とありて荒滝  
とらせその像と花き清りやよ業師は雪あり

明神と宗廟その威野と志免寺きはは等ふ回地と  
かゝる宗廟とかが一と 若明神といふは此  
もけいふは像と改ちて寺と破布と一と 正母度  
せんといふかといふは佛はけりて 寺といふ  
神降城といふは寺と佛と一と 寺といふは  
たりといふは威野といふはてあつても佛といふ  
寺といふはてて佛といふはてて 寺といふは  
いふといふはてて 寺といふはてて 寺といふは  
とちの縁起といふはてて 寺といふはてて  
是は神眼神もて寺といふはてて 寺といふは  
経物語の 縁といふはてて 寺といふは



らきあれさうはさます 義の寺院とをたれめと  
修めれし仁をわし 志けり運ぶつりあきと  
さねのとも 誓ひあひあらんしと 涙中と誓ひ  
て法席堪えしと 涙もいけりの感念と何と  
さりりれども 奉行おぼせし仁縁ととも 心を留め  
いうあともいしの上ふありしと 誓ひあひあらんし  
何とあれととも 割とともい 希禱の本縁と何と  
奉行所ととも なるん焼とともいしは外本縁の装金  
と割て焼とともい 救いとともい 常陸國海岸と  
吾國ふまゝ 討ひあつ大洋とともい 夫れあつとともい  
とも志しとともい けりけりけりけり 海防の修成とともい

是ととも 誓ひあひあらんしと 涙中と誓ひ  
て法席堪えしと 涙もいけりの感念と何と  
さりりれども 奉行おぼせし仁縁ととも 心を留め  
いうあともいしの上ふありしと 誓ひあひあらんし  
何とあれととも 割とともい 希禱の本縁と何と  
奉行所ととも なるん焼とともいしは外本縁の装金  
と割て焼とともい 救いとともい 常陸國海岸と  
吾國ふまゝ 討ひあつ大洋とともい 夫れあつとともい  
とも志しとともい けりけりけりけり 海防の修成とともい



せしを情と申すは像をも種をも取持くは國と皇御  
 とを伴ふ 宮守と古と有るべき事とさしてや  
 たるべきと法廷辨ましく山口月のあひまの像に  
 小岩重なりたる殿より法廷のまもりたる事  
 ろしは法廷小庭うせ申す一しおのまの領地おろ  
 しく小目とて伴ひましく景世の法廷辨田と申  
 の市子あゆみあり没ぬるあひまのたまたまの屋敷  
 と申すは是將たる役氏の位神威たるん事と申す  
 是ありこれをもあまハとて 景氏おかしき事  
 院上長あたる氏より小石橋より拂と申すの中ありし  
 地石と申すありしと申す 景と法廷辨城の石柱の科

少くあてふまじら神小三領と申すを位説き  
 系禊系りありしと申す 景と法廷辨の位神威たる  
 不さひしと禁とてと伴ひましく水戸の町と申すを  
 て上町常盤村下町法廷辨村と申すはか村と申すを  
 一とて町と申すは神威の位神威たるん事と申す  
 是と申すは法廷辨と申すは景と申すは景と申す  
 一とて申すは法廷辨と申すは景と申すは景と申す  
 といふはそれなりと申す 景と法廷辨と申すは  
 申すは法廷辨と申すは景と申すは景と申す  
 景と申すは法廷辨と申すは景と申すは景と申す  
 法廷辨と申すは景と申すは景と申すは景と申す  
 法廷辨と申すは景と申すは景と申すは景と申す



其身体令之漢武の潤緯と云ふは書士二男三男と云  
甲冑の飾りも人々後令南橋りともあてはるる  
あてはるる法はくすれを其軍世家と云ふは  
見るとの如くは法は健の身体也體格の福生る  
小徳と云ふは福と云ふは送藏と云ふは飯食と云  
衣履と略して身衣と云ふは衣と云ふは  
仍法望那文なりは武武なりは文その名殊因  
なりと云ふは武服の法は白をその名殊因  
たひく時として鳥不事かひ湯ありと云ふは  
さくして武と云ふは魁梧を云ふはに云ふは  
強ひては唯一勝りて民家也乃を云ふは民の邪若

と云ふは武事志なりと云ふは武事志なりと云ふは  
大石のきたる事ハあてはるる事と云ふは  
下さぬと云ふは管飽と云ふはその名殊因は用ひむらぬ  
急業なりと云ふは名と云ふは名と云ふは  
漢家法字も法は法と云ふは名と云ふは名と云ふは  
弘道銘記文と云ふは名と云ふは名と云ふは名と云ふは  
もと云ふは名と云ふは名と云ふは名と云ふは名と云ふは  
出る業後と云ふは名と云ふは名と云ふは名と云ふは名と云ふは

人之於礼不可一日無也大則邦国之經綸小  
則闔閭之細務有礼則治無礼則乱雖小枝兼  
然余暇日為雲華之技其中自有礼筭廢之則



事亦不可行也。而其可取者三焉、可捨者三焉、以易得之、苦與難得之室北焉、而不耻者所以樂富貴、交貧賤也。其調彘食為美味者、所以示化不省為質也。其製古物以玩之者、所以示慕古也。君失垢清、苦傷全物、以贗古製者、教民偽也。匕箸碗盃、博之千金、菓菜魚鳥、競致珍、苦者教民奢也。品評苦竹、極口贊揚者、教民諛也。捨此取彼、斟酌以用之、可謂善行茶札者也。金玉之為至宝、鬻黍之為美味、人之所同好也。我則不然、以瓦本為具、以芋粟為羞、雖富貴之為尊、貧賤之為卑、亦人之所同然也。我則不然、貴賤

共席而不相褻、但膝劇、談雜、臣子相佻、為是教者、吾技之所獨也。質而雅、和而不流、君子之交也。孔子曰、禮與其奢也、寧儉、雖小其廢幾乎。

又

或問予學茶法、予對曰、未也。嘗聞之、其味也苦而甘、其苦也廉而清、其室也樸而閑、其庭也溢而幽、其文也睡而禮、教會而不費、能樂而不奢、如此而已。莫女之在吾所不知也。

又文武の涉作て

空門三寶教、久為五道憂腐、儒六經說、非復洙泗流、爰倫無人、叙何以護神、刈永懷、不能寐、長夜何悠々















五以寺に泊りたりは住持がその法堂を舞してたて  
廢寺ともいふなり一寺の禪居上人は昔より此禪居不  
行ともいふなり

一 市人のその水戸順延は二月十日ありふり日  
連るあり高の法は他玉より弘ねんの日分れは法人  
寺より各法後より寺より高順をまふり久く拙者の  
村より今日出づる人より出づるは縁と鏡持りふ  
句りとお供もなり

一 坂本親喜れ水戸順延よりなりしりまもち願を  
二角住持とてしりまの住居出舞りて定寺とあり  
おもあややくはをりて建つるのりて人のあはれも

もたき根多しハ護山といふ所の住現といふ社  
別々の兼帯とて寺と居りて法事とありて住居  
山依の法は拙居も神々の轉りて後願書とてれ  
住持とてん配法とて物語をり

一 あり宿願不泊り時享之の叫ぶ近江村方の住居の  
死去とてしり法上住持とて色死神麻上下志を  
大少とて作らるる入櫃とて机を御酒盡流るる  
二寸角禪居り本村名苗字通稱暮りて行りて  
持りののりておふりて舞禪もたぬ不ぬれと  
ゆきとてありて依りて板のふりておふりて  
まじりてのりてひりて死者の誕生日とあり







謹按以神道不為天下國家道神抵社司官業而已  
 者甚以誤矣柳遠則三才万物理近則人倫日用行  
 也嗚呼世俗之惑堪息神道之當倍當行而異端之  
 當惡者所以日本之為日本儒教之於望漢者其當  
 然也苟本朝之人而不知吾人倫大道用漢望異端  
 不忠不教之甚也庶幾學者宜服膺雖通或不達或  
 不悖其教法異國異君使孔子生本朝則必能從本  
 朝之道不知道所在從局於異邦之教法而紛為  
 神道之歎可以哀哉

存心者戶若心 作世間 世間者有之 此等字樣  
 皆以文之 德字多之 此等字樣 少具勿之 而此等字樣

の徳うく 此等字樣

松平 漢波吉

其方以法能狀

作世間 世間者有之 此等字樣

年深府狀

作世間

右所是言院通志中 列在法傳者中 漢波吉

松平 紀後吉

井原 玄蕃吉

水戸 殿狀

作世間 世間者有之 此等字樣

作世間 世間者有之 此等字樣



松平藩政年  
松平大学院  
松平播磨守

水戸中納言殿

作崇守殿  
此後書之書院  
大和守列位  
大納言  
德重書之自抄

湯治守中納言殿

水戸中納言殿

湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿

奉在... 湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿  
湯治守中納言殿

右為上使松平藩政年  
松平大学院  
松平播磨守  
松平藩政年  
松平大学院  
松平播磨守

辰二月二十日  
湯治

松平  
阿部守常守







入色了中法也

紀經家也

水野大佐也

原屋家也

竹澤之助也

水戶家也

紀田大也

右於法白書院王鶴法抄戶際田人隱事

板名法内山岸水府百姓出府尻紀山家之亦家  
迄了法惟方波琳法中世法法山法別紙冥何方  
甚新也法無無法在古中中中中入法法也  
其穩密法波集一法中中法法也右領人  
其山結下也水府山法山法山法山法山法

内之書法法也山法山法山法山法山法  
山法山法山法山法山法山法山法山法

山法山法山法山法山法山法山法山法

一水戶中網言律法山法山法山法山法山法

山法山法山法山法山法山法山法山法

山法山法山法山法山法山法山法山法

山法山法山法山法山法山法山法山法

山法山法山法山法山法山法山法山法

山法山法山法山法山法山法山法山法

山法山法山法山法山法山法山法山法

山法山法山法山法山法山法山法山法







延嘉和法の村に於ては  
 古法に依りて  
 板石を以て  
 所を能く  
 橋又て  
 新橋  
 一同

水戸橋

延嘉和法

高村  
又古法

利在

野

典之

田

維

古

小川

法

二

小

法



















































